

- ・知的発達や心理的発達において運動により様々な感覚を刺激することがとても大切であることは感じていましたが、その具体的な方法を教えていただきました。構音障害や、ビジョントレーニングとあわせて読み書きの学習にも有効なものだと思います。
- ・私は、指導の中に縄跳びを取り入れていました。記録の伸びは記録していましたが、コツについては、教えていませんでした。今回の指導を参考に指導したいと思います。
運動が苦手な子どもたちに楽しく運動に取り組める場の設定をされていて、素敵だなと思いました。ラダー、なわとびなどは取り入れることができそうなので、やってみたいなと思いました。
- ・とても楽しかったです。身体感覚を調整していくことは、脳の活性化や末端機能の活性化にもつながります。運動から学習を始める大切さがわかりました。
- ・実際、体を動かしてやってみて、子どもに自信がつくような指導ができればいいと思いました。とっても楽しかったです。みんなで笑いながら取り組みました。
- ・学校はさまざまなきっかけづくりの場であるので、楽しい運動と出会える先生の実践は素敵だなと思いました。限られた時間の中で主訴に対する指導と運動の時間とを組み合わせたいと思います。
- ・先生の模擬授業の中に褒め言葉がたくさんありました。実際の指導でもたくさんの認められる場面があると想像できました。スモールステップで具体的な方法を伝え、実践することで「小さなできた」を積み上げていくことは、自信や意欲につながると思います。結果、学級での適応が改善していくというサイクルができていくことが伝わりました。ありがとうございました。
- ・普段、運動課題をあまりやらないので、少しずつ取り入れていきたいと思いました。ありがとうございました。
- ・運動の領域は、必要に応じて行っていた程度でしたので、積極的にとりいれているやり方のよさを見られて良かったです。
- ・運動の習得のための具体的なスモールステップの支援が分かり、参考になりました。
動画で実際に動きを見ることができ、細かい部分まで伝わってきました。短時間にたくさんの情報が入り、先生の工夫が伝わる発表だったと思います。運動に困難さを感じている児童も多く通っているのでも、先生の実践を参考にしながら、スモールステップで自信がつくよう指導していきたいと思いました。ありがとうございました。
- ・運動することが、心と体によい影響をもたらすために大変有効かが、わかりやすく紹介されていて参考になりました。ありがとうございました。
- ・教え方やコツの伝え方がとても上手であり、運動が苦手な子どもも挑戦してみようと思えるなあと感じた。松本先生自身がとても楽しく運動に取り組んでいるので、子どもも一緒になって頑張りたいと思える環境だと思う。少しの時間でも運動を取り入れていこうと思った。
- ・なわとびや走ること、マット運動など、運動機能へのアプローチをしていくことで、体を動かすことが好きになり、自信もついて、そこから心のコントロールへもつながっていくということがわかりました。
- ・通級という個別の場、運動を通して伝えられることはたくさんあると思いますし、できた、できないがはっきりして児童も好みやすいと思います。私も運動はよく取り入れていますが、児童の実態に合わせて内容も深さも多様です。松本先生のご指導の内容はやや深いですね。体育が好きになり、長所が増えることは素敵なことだと思います。でも、私は通級は週1回のペースですし、他のニーズもあるので「広く、浅く」でもよいのかなという考えです。理

論からの指導も大事ですが、児童の発想や、一緒に考えて運動していく姿勢も大事にしたいと思います。

- ・体の動きがぎこちない子どもが、繰り返し練習を行うことで、少しずつできるようになる指導をされていました。また、子どもが楽しく取り組めるように工夫されていて、子どもが達成感をもてるのがいいと思いました。
- ・一つ一つの運動に対しての知識が豊富で、それを指導にいかしていることがすごいです。運動に限らず、自分の得意分野を極めてそれを指導に生かしていくことの大切さを確認できました。
- ・「体育」という専門性を強みに、通級指導をする先生の実践がとても参考になりました。自分もなにか強みとなる専門性を見つけ、通級指導を考えていきたいと思いました。
- ・運動からのアプローチが必要な児童は私の担当するなかにもいます。通級する児童の多くが不器用さを併せ持っていると思います。また、不器用さに合わせて協調運動の苦手さがあると思います。そして、多くの学習で躓く原因にもなりえます。松本先生の発表から、色々な運動指導を知ることができました。ありがとうございました。
- ・ありがとうございました。現在は構音の園児が中心の教室になりましたが、その特徴を何らか持ち合わせている園児もいます。とても勉強になりました。
- ・実際に指導のやり方を見せていただいたので、とても勉強になりました。きちんとステップをふめば運動の苦手な子どもでもできるようになることがわかり、指導の仕方の重要性を感じました。動画を参考にして今後の指導に活かしていきたいです。
- ・運動を通して子供に自身をつけられる実践、先生ならではのと思った。感覚統合や対象児童の課題との関係性も伝えていただけたらありがたい。
- ・指導の仕方がよくわかった。指導の中に計画的に組み込むこと、できる環境づくりが大切だと思った。
とにかく、先生のもとに来るお子さんは楽しいだろうなと思いました！楽しいと思うとき子どもは伸びる、できるともっと楽しくなる、よい循環が生まれていそうです。身体づくりは基本だと思います。私達の教室の幼児は個別活動が短いうえ、私自身が運動は苦手ですが、一緒に楽しく運動…まずは緊張と脱力から取り入れたいと思います。
- ・指導のスタートに体を動かすことで、緊張をほぐすことにつながっているなと思いました。通級児が「〇〇先生の言うことは間違いない」と弟に伝えた言葉から、強い信頼感を感じました。担当者の専門性がとても生かされた実践だと思いました。
- ・松本先生、最高です。きていた T シャツも最高でした。松本先生に会いたくて通級する子がいるのではないかと思います。これぐらいの熱量で対峙してくれると引き込まれると思います。画面から飛び出てくるかと思いました。LD 通級なのにまるで体育の授業のようで、でも、内容はまさしく通級で専門的でわかりやすかったです。これぐらいスモールステップで丁寧に指導することが大切なのだと改めて実感させられました。動画、どこかでずっと公開してくれないですかね？何度か見返したいです。また、体育の時間にフラフラしている子はやりたくてもできないからふらふらしてしまうのだと改めて思いました。それと、「走る」に関してですが「実際に速く走れなくても早く走れる気持ちになれることが大切」という言葉はなるほどと思いました。その気にさせるって大切ですね。
- ・浜松市のことは9校、発達7校、中学3校と、設置が手厚いと思いました。人口差はあると思いますが、個々の指導員の努力プラスハード面での協力も必要だと思います。・体を使うあそびの大切さを改めて確認しました。
- ・意識づけをスモールステップのあそびを通して体験していくことの成果から、自身につながる方法を具体的に教えていただきました。今後の指導で個々に合わせて取り入れていきたいと思います。
- ・実際に体を動かしてできる動画だったので、楽しく見ることができました。一つ一つのステップは通常級の子どもたちにもできそうな指導でした。ひとつひとつの動きの指示がとてもいいので分かりやすかったのも、子どもた

ちが「これならできるかも」、と見通しが持てると思いました。

- ・苦手さをもった通級児に運動を取り入れる効果は大きいなどと思いました。説明がとてもわかりやすく児童も理解しやすかったです。・粗大運動の指導は、どんなお子さんにもわかりやすく、自分自身の体の動き方について分解して考えることができるとも興味を持ちました。一つ一つまず自分が理解してそれを子どもと一緒にだんだんつなげていくという指導を私もできるようにになりたいと思いました。
- ・運動ができるということはシンプルに子どもたちにとって「うれしい」「楽しい」と感じられることなので、先生の実践を参考にいろいろな運動経験を増やし、自信を持たせていきたいなどと思いました。
- ・発達性協調運動障害の疑いのある子どもは結構いると実感しています。通常学級の体育の授業でこの部分をもう少しカバーできるといいと思いました。先生の実践を通常学級の先生方にぜひ伝えていただきたいと思います。
- ・松本先生に受け持たれた子供たちは、先生の指導により今までできなかったことができるようになるので、学校が楽しいことを実感しているのではないかと感じました。スモールステップで、運動が苦手な子どもでもできるようになっていく過程や、運動を楽しくするための工夫が随所に散りばめられていて、とても勉強になりました。私も自分の学校で実践したいです。
- ・体を動かす経験をさせるという漠然としたことでは、できるようにはなかなかならないよなどと改めて考えさせられました。運動だけやり続けるわけにもいかないとありますが、理論立てたことを経験させて、少しでも困難さを解消してあげたいです。
- ・個々に合わせてスモールステップで指導されていることがわかりました。集団では行うことがなかなか難しい個に合わせたスモールステップの指導を個別で行うことで、「できた」が実感しやすくなり苦手意識のあったものも意欲的に取り組めるようになるのだと思いました。幼児言語教室でもそのような指導を心掛けています。個に合わせた指導の大切さをあらためて感じることができました。
- ・体育の苦手な子が、自信がついて体育に参加できるようになったというところにとっても感心した。・発達通級に來ている子どもたちは発達のでこぼこがあるが、その中で、自分の体を知り、コントロールできた経験が自信につながったり、全体発達の向上につながったりがみられた事例だと感じた。「できた」は、やはりうれしくてモチベーションにもつながるのだろう。
- ・Youtube のコメント欄に書かせていただきましたが、自分も運動を通級指導に取り入れているので、とても参考になりました。ありがとうございました。
- ・実際に指導されている目線で動画を作成していただいたので、子どもの気持ちになって考えることができました。運動が苦手な子がいるため、さっそく実践してみたいです。
- ・常々体を動かすことの重要性は聞いている。「やりたいけどできない」子どもに寄り添って、丁寧な指導を積み重ねている様子が目に浮かんだ。動画での具体的な方法が見られてとてもよかった。時間的にも、上手にまとめられていてよかった。ありがとうございました。
- ・松本先生大変興味深く拝聴しました。いま、指導している児童が 2 重飛びに挑戦しています。1 回は跳べますがその次が跳べずに伸び悩んでいました。先生の教えていただいた方法でまたチャレンジしていきます。タイムリーな動画をありがとうございました。児童の実態が画面上に出てくるので、それも参考になりました。コメント欄の活用も大変良かったです。コメントに対して先生がお答えを入れてくださることも大変良かったし、参考になることばかりでした。こんなコメントのやり取りは、効果的で、コロナのおかげでピンチなことばかりですが、チャンスに変える試みだと思いました。運動のことですが、私も「プレインジム」を指導の最初に 3 分くらいやっています。繰り返すことで身体機能の改善がみられることと、指導に入るための心の準備のためにやっています。運動も取

り組んでみたいと思いました。大変参考になる良い発表をしていただきありがとうございました。新たな経験を通して新たな自分を発見できる取り組みかと感じました。気分転換もできるので、通級の子たちも興味深く学べると感じました。

GoogleForm で受け付けた質問・回答

Q 二人で 40 人ということでしたが、どのような分担をしているのですか？個別指導とグループを組み合わせているのですか？

A: 現在、20 人ずつ担当しています。基本的に1対1ですが、例外として1教室で2対2で指導している児童がいます。在籍学級が同じ 2 人です。どちらもコミュニケーションに課題がある児童なので、1対 1 の課題と 2 対2のグループ活動を組み合わせで指導しています。

Q パワフルな先生の運動以外の指導について、興味があります。また、機会があれば紹介いただけると嬉しいです。バランスを鍛える運動の中に記載された「バランスコース」について詳しく知りたいです。

A: バランス平均台、バランスビーム、バランスボード、バランスストーンを組み合わせたコースです。指導者が準備して児童を迎えますが、中には「コースを作りたい!」と自分で組み替え、それを楽しむ子もいます。写真が会報559号に載っていますので、よかったら御覧ください。

<http://www.shizugenken.jp/wp->

[content/uploads/2022/01/548a38ef5db152731a24d7ccc462544e.pdf](http://www.shizugenken.jp/wp-content/uploads/2022/01/548a38ef5db152731a24d7ccc462544e.pdf)

YouTube より 感想・質疑応答

→:松本先生より

・松本先生ありがとうございました。発達通級でこの頃卓球を取り入れています。発達性協調運動障害の児童の活動と、将来余暇を楽しむために新しいことを体験させたいと思ったからです。効果があるんじゃないかなと感じています。今日のアンケートで縄跳びが役立つと感じている子が多いようなので今後の指導の参考になりました。また、今日の動画を拝見しながら発達性協調運動障害により思うようにできないことがパニックの原因になる子もいると感じました。(私の受け持もつ児童にもいます。)運動を指導することは気持ちの安定にもいい影響を与えていると感じました。

→言われてみれば、卓球は将来の余暇活動にもつながりそうですね。体育指導要領にも「生涯にわたって運動に親しむ」「楽しく明るい生活を営む態度」とあるので、楽しめる運動指導をしていきたいです。

・松本先生ありがとうございました。私も授業の中で運動を取り入れています。体を動かすことで心の安定やバランス感覚を身に着けることができると感じています。1つ質問ですが、運動を取り入れると45分の指導時間の中で10分~15分程度時間がとられるような気がするのですが、他の指導とのバランスはどのようにしていますか。がつりやる時と簡単にやるときで分けているのでしょうか。教えていただけるとありがたいです。よろしくお願いします。

→時間の取り方は難しいと感じています。内容によりますが、短時間で区切るためにタイマーを使うことが多いです。「2分から5分まで、何分がいい?」と子供に設定させるとか。中には、「バランスボール・なわとび・風船ジャンプを1分ずつ」という子もいます。ただ、子供の意欲や内容によっては、時間を気にせず15分以上やることもあります。例えば、なわとびの技を習得することで体育の授業への参加率が上がるとしたら、それはとても大きな学びだと考えています。長時間を使うための言い訳かもしれませんが。

・素敵な動画ありがとうございました。OBの石川誠です。オンラインならではの発表+交流がこのコメント欄でできることが最初の青木事務局長の新しい静言研の方向性とも合致すると思いました。また、「4課題」の最後の「いかに意欲を引き出すか」が通級のみならず通常学級でも最大のテーマであることは吉川先生のご講演とも一致したことですよね。子どもたちができるようになったことで自信を持ち、意欲が向上している事例を多数ご紹介いただいたところがとても素晴らしいと思いました。この指導や動画のように若手の方々の持ち味を活かしていけるこうした発表や交流が広がっていくことを期待しています。おひさまの松本先生ありがとうございました。

→ありがとうございます。子供たちが意欲的に取り組んで「楽しい!」と喜ぶ姿を見るのが自分の意欲にもつながっています。

→はい、嫌いになってしまったら元も子もないと思います。

できることを求めすぎないのは大事ですね。

一方で、「練習したらできた」というのはとても大きな動機づけになるので、成長を感じられるような声掛けを絶えずするようにしています。

返球できなくても「よく飛びついたね」とか、跳べなくても「あと5cmで縄が足の下を抜けるよ」とか。

・運動や体を動かすことに苦手意識を持っている児童が多いので、大変興味深く視聴させていただきました。

私もふだんのメニューの中に体を動かす時間を取り入れています。全員ではなく、いろいろな課題の中からの選択性にしています。

松本先生がおっしゃるように、選択性にしてしまうと、やりたくない子は永遠に選ぶことはない。必要なお子さんには、こちらから課題として提示してみるという方法もあるなと思いました。そのためには、やってみたい!と思える動機づけや、教材そのものの魅力、場の設定など環境設定、いろいろと考えなくてはいけないなと感じました。午前中の吉川先生のお話にもあったように「できること」を求めすぎると、本人にとっても辛いので、「嫌いにさせない」ようにしたいです。なわとびなど、うまく跳ぶためのコツを、具体的に、タイミングよく伝えることで、やってみたらできた→うれしい→違うことにも挑戦したいというサイクルができれば最高です!明日からの実践に生かしていきたいと思います。ありがとうございました。

→はい、嫌いになってしまったら元も子もないと思います。

できることを求めすぎないのは大事ですね。

一方で、「練習したらできた」というのはとても大きな動機づけになるので、成長を感じられるような声掛けを絶えずするようにしています。

返球できなくても「よく飛びついたね」とか、跳べなくても「あと5cmで縄が足の下を抜けるよ」とか。

・松本先生ありがとうございました。運動をすると脳が活性化されることから、自分も授業の始めに取り組んでいます。通級に来るまでに「体育の授業でやってみる(やらされる?)」→「(本人の現状に合っていない課題だから)できない」→「やらなくなる」経験をしている子がたくさんいることを私も感じています。その子の課題を先生のように見取ってスモールステップで「できる」ようにさせる具体的な指導方法を教えていただきありがとうございます。

・「いかに意欲を引き出すか」については、子どもたちにやりたい運動内容を自分で選択できるようにすることが良さそうです。自分の場合は、「ぶら下がり」「トランポリン」は必ず最初にやるのですが、その後の種目は選ばせています。子どもたちはキャッチボール、ドッジビー、風船バドミントン、羽子板などを選択しています。(運動の終了時刻は予告しておきます)以前は、私がすべて運動内容を決めていたのですが、子どもたちが自分で決めた方が、意欲的に頑張っているのかなと思います。それから運動をする前に「運動をすると脳が活性化されて頭がよくなること」を子どもたちに伝え続けています。風船バドミントンをしながら、「しりとり」をするのも効果的です。衝動的に行動してしまう子は風船を打ち返すことに集中すると、ついつい「ん」の付く言葉を言ってしまう。『「ん」の付く言葉を言わないように脳でコントロールすることができるようになれば、実生活でも行動をコントロールしやすくなるよ』と伝えると頑張っていることが多いです。

→「必ずやる種目」と「選択できる種目」の併用、いいですね。教師がつけたい力を伸ばしながら、子供が意思決定して意欲的に取り組むこともできますね。

運動と脳の働きについて、子供から質問された時には教えていましたが、山村先生のように「伝え続ける」というのは重要だと思いました。今まで話していなかった低学年の子供にも、簡単に伝えてみたいと思います。

運動しながらしりとりするのは、「しりとりキャッチボール」「しりとりドッジビー」をやっていました。ことばの教室では、座って言えばしっかり発音できるけれど、動作と一緒にだと言えないという子をあぶり出すのに使えました。風

船バドミントンだと、球を保持しながら考えることができないので、焦って「言えない」「『ん』で終わる」を導きそうて面白そうです。新年の指導で早速導入してみます。

実践について色々教えてください、ありがとうございます。こういう情報を得られると、「このテーマで発表してよかった」と感じます。

→早速、返信をありがとうございます。「必ずやる種目」と「選択できる種目」の併用、確かにそうですね。すっきり言葉で表現していただきうれしいです。「必ずやる種目」と「選択できる種目」を何にするかはこれからも考えていきたいです!

風船バドミントンでは風船を落ちないように打ち続けながら、しりとりを言葉を考えさせています。先生のおっしゃるように「動作と一緒にだと言えない」子がいます。そんなときには「ヒントをください」「教えてください」と助けを求めればよいと伝えています。そこで助けを求められる子と自分で何とかしようとする子がいます。

自分で何とかしようとするのはいいのですが、その後のアドバイスの仕方が難しいです。

それから例えば「ライオン」と「ん」で終わる言葉を言ってしまっても、相手に風船を打ち返さなければセーフにしています。「ん」の付く言葉を考えてもいいけど、行動する(打ち返す)前に判断しよう」というとできるようになる子が多いです。「今、ライオンと言いきりになったけど我慢できた」と言った子には、きっとこれからは教室でも「していいことといけないうことを判断して行動できるようになるよ」と励ましています。

・幼児言語教室指導員です。両足ジャンプが苦手な子、投げるのが苦手な子(そもそもボールを投げた経験がない?ボールを手から離せません。)等、様々な子がいます。苦手がわかると15~20分の個別指導の中で、その前段階(トランポリン、トランポリンが難しければ指導員が抱いて飛び、飛ぶ感覚を楽しんでもらう)(投げる、ではなく、転がしあうやり取りの中で感覚を掴んでもらう)等、スモールステップで取り組んでいます。短い個別指導の時間に毎回、は組み込めずについて、時間配分は難しいと感じています。コメントの中に「バランスボール、縄跳び、風船を1分ずつ」とありました。そのくらいの短時間でできる運動の具体的方法を教えていただきたいです。あと、そもそも緊張と脱力がうまくできない子どもたちにどんなアプローチをしていけば良いのかも知りたいです。

→3種目を1分間ずつやるのは珍しいケースで、その子も元々は1種目を2~3分間やるだけでした。「トランポリンやりたい」「よし、タイマーで2分セットするよ」という具合に。

でも、ある日「なわとびとバランスボールどっちもやりたいな」と言い出したので、「じゃあ、2つ併せて3分にしよう。何分ずつにする?」と、分割案を出しました。それが気に入ったようで、3種目を1分ずつやることも出てきました。前段階で時間を区切ること、次の段階で限られた時間を分割して使うことと進みました。

バランスボールは本人が好きのように弾んだり転がしたり上に乗ったりして遊ぶ。トランポリンなら好きなように跳ね、途中から教師が「これできる?」と技を見せて模倣させる。なわとびは1分だったら本人の好きな跳び方、3分あったら技を指示してどこまでできるか見る、といった具合です。緊張と脱力は、おそらく最もポピュラーな筋弛緩法、「3秒間限界まで力んで、息を吐きながら脱力」を使うことが多いです。まず、自分の筋肉に緊張状態と脱力状態があることを知るのが第一歩ではないでしょうか。

慣れたら、「限界まで背伸びして、胴体はそのまま、肩から指先までだけ力を抜いて下ろす」と、部分的な緊張と脱力に進めています。

松本研先生より

先日、「学校のアカウント制限でコメントできない」という方から、なわとびについて電話で質問がありました。動画で回答を共有します。

https://youtu.be/IdTn_jBIEXM

質問 次のような子達への指導で、何かアドバイスがあるか

- 1 なわを回す速度はあるが、1回で止まってしまう子
- 2 跳ぶことはできるが、かけ足跳びのようになってしまう子

練習や撮り直しなし、字幕もなしで見にくいですが、何かの参考になれば幸いです。子供の表れが違うとか、他にも指導のアイデアがあるとか、御意見お寄せください。

勉強熱心で経験も豊富な多くの会員の皆様が、少しでも「見て良かった」と思えるような発表をしようと、おそらく今までの静言研ではあまり触れられなかったであろう「運動」を扱いました。

動画のコメント欄を活用した意見交換の提案を受け入れていただき、感謝しております。皆様からの感想、御意見、御質問を読んだり返事を考えたりすることで、自分も更に多くの学びを得ることができました。アンケートの感想と御質問を読むと、今回の発表を肯定的に視聴してくださるものが多く、嬉しく思います。自己有用感が向上しました。

見返したい方や、期間内に視聴できなかった方もいらっしゃるので、今回の動画を限定公開（YouTubeで検索できない。URLを知っている人だけ見られる）します。静言研のアカウントではないので、現在静言研会員でない方が見ても問題ありません。

元動画 <https://youtu.be/6FAMMPX5DzA>

なわとび回答動画 https://youtu.be/IdTn_jBIEXM